

ほんの森

図書館 ☎ 84-3311



図書館休館日

10月2日(火) 毎週月曜日

日曜映画会

『アイアン・ジャイアント』

日時 9月16日(日) 午前10時・午後2時
 上映時間 1時間27分
 場所 2階ハイビジョンホール
 定員 各回120名
 入場 整理券(無料)を9月1日(土)から配布します。
 ご希望の方は図書館カウンターまでお越しください。



金曜映画会

『白い船』

日時 9月21日(金)
 午後2時から
 上映時間 1時間48分
 場所 2階ハイビジョンホール
 定員 先着100名
 ※整理券は不要です



戦後間もない日本を訪れたドイツ人ウィリー・ザイラーが、復興していく日本の風景を多くの版画に残し、その中から約50点を展示します。

◆次回予告◆ 「静謐パステル風景画展」
 9月29日(土)～10月28日(日)

図書館ギャラリー

「ウィリー・ザイラー展」
 —ドイツ人が見た戦後日本の風景—
 9月23日(日)まで開催



文芸

◆俳句

- 児を叱る声筒抜けの夏休み 浅野 茂子
 門火付け聞かせ浄土の旅話 池田 逸子
 稲咲くや座右に古びし農日誌 伊藤 敬子
 遠花火音はあとから山の上 伊藤 定男
 愛犬の遺影を胸に盆踊り 今関満喜子
 降り立ちしプラットホームは蟬しぐれ 魚地 照子
 山寺や曲りゆくほど蟬しぐれ 江森 悦子
 曲がりつ、池面彩る花火かな 大木 素風
 登り来し山路は尽きて巨漢落つ 大谷 武彦
 茄子漬や勤が物言ふ桶の箍 川島 孝夫
 何処にや逝きし防人天の川 桑名 大行
 江戸しぐさ伯母の入りくる夏座敷 向後 寛
 恙なく今日も過ぎけりメロンの香 越川 福子
 山百合や古新聞に包まれし 小松 藤男
 瀬戸物市狸にはねる夕立かな 佐瀬 輝夫

子の担ぐ竹刀の先の遠花火 椎名万里子
 甚平や己の流儀曲げられず 玉虫 栗扇
 鬼来迎今に伝へて広済寺 戸村 静華
 輪を抜けて綿あめ買ふや盆踊 福田 幸子
 灯台の海へなだるる月見草 布施 和代
 手打して藍の朝顔抱きけり 丸山 照美
 破れ障子穴にあふれて天の川 山口 一秋
 利根の子の青芦原に遊びけり 渡部 和秋

◆短歌

陽の匂い大地の匂い我が汗も 越川 義則
 染めみたる野良着照らす月影 余命あと一月なりとのドラマ見て 己がむかしをふと思いだす 鈴木 益郎
 遠花火彼方の空に古里の 母の面影ほのかに浮かぶ 土屋 好
 闇に咲く月下美人の愛しさよ 一夜限りの名残りを惜しむ 高梨 キヨ

樹樹の葉の間より見ゆる袋田の 滝のイオンを身に浴びるたり 池田 春江
 梅雨寒に仕舞ひし長袖またも出し 纏ひて今日は本を読みあつ 鈴木まさ子
 パリウムを飲みみての検診いまだ終り ひと息に飲むバックの牛乳 永藤 滋
 昼顔のうす紅の花咲ける 九十九里浜の砂丘を歩む 平山 芳子
 ジムナジウムに通ふと友の電話きき 吾は日照りの畑に出でゆく 押尾 輝子
 差し出せる娘の手を払ひ歩みゆく またも片意地張りてしまへり 吉岡 信子
 幼きがクレパスの緑手に取りて 塗りたるやうな青田広がる 八角 三枝
 チロリアン・ランプの花を垣根とする 家ありて風の吹かぬかと待つ 西山満里子
 電話機の呼出し音を替へて見つ 花のワルツの明るき曲に 田崎 尚美
 乗するポストの口を手に拭ひ 落つる手紙の音を聞きたり 佐瀬 初音
 漸くに女童眠りそめし時 古紙回収車の近づきて来ぬ 芹川 初子
 膝の皿割りて痛みの続く日々 梅雨の長雨早く晴れぬか 長谷川正子
 素っ首を梯子にしっかりとさし入れて 獅子秋天に逆立をせり (大宮神社の梯子獅子) 斎藤つね子